

昭和医科大学医学部(Ⅰ期) 英語

2026年2月6日実施

[1]

1. C	2. C	3. A	4. C	5. D
6. A	7. B	8. B	9. B	10. A
11. D	12. A	13. D	14. D	15. C

[解説]

- at the moment とあるので「過去」でありかつ「進行形」とわかる。この時点で C か D の二択だが、record は通常他動詞で使用し、主語も本来の目的語になっているので受動態にする必要がある。
- What's your take on ~? で「～についてあなたの見解（意見）はどうですか？」という決まり文句。
- 長さ×幅=area（面積）。単位が square inches（平方インチ）なので面積を指す。
- S be worth V-ing で「～する価値がある」という表現。この表現は V-ing の目的語が文の主語になり、V-ing の目的語を書くことがないため A は不可。
- 空所は because 節を修飾する副詞を入れねばならないため not least「とりわけ」が正解。
- none the **比較級** for **名詞** で「～してもその分…することはない」という比例比較の表現。
- would rather not + 動詞の原形 の語順が正解。助動詞の否定は不定詞の直前に置く、と考えるのが基本。
- Need の用法が問われている。一般動詞であれば need to になるので D は不可。C は needn't の時点で助動詞なので to come はおかしい。A は論外。
- A と C と D は不可算用法で使用する名詞なので複数形は不可。
- 文末に「時間通りに終わった」とあるので、「困難があったにもかかわらず (=Despite / With all)」が自然。
- S is such that SV という構文の倒置形 such is S that SV が正解になる。A は importance が important なら正解。C は such の後ろに単独で形容詞が来ているので不可。B は意味不明。
- There goes ~ で「(予定などが) ダメになる／消えていく」という慣用表現。
- 空欄には形容詞 interested を修飾する言葉が入るため、副詞を入れたい。that にも副詞の用法があり、so と同じ意味になる。
- 強調構文を用いた疑問文であれば文構造が崩壊しない。C を選ぶ学生もいると思うが、直後の that に説明がつかない。A は reason に the がないのがおかしい。「どう思いますか」は how do you think ではなく what do you think なので B も不可。
- 最後の文言に気が付けただろうか。文末に “they all rhyme!” (すべて韻を踏んでいる) とあり、Cake, Steak, Milkshake はすべて [eɪk] で韻を踏むため C が正しい。

[2]

1. (I) C (II) A (III) C (IV) D (V) D (VI) C (VII) A
2. (ア) on (イ) to (ウ) for (エ) to (オ) of
3. 異なる意見を表明することは仮に衝突を生もうがよしとすべきだが、政治や宗教に関する話のようなあまりに多くの議論を呼ぶ話はしないというしきたりが薄れると、衝突が激化するであろうということ。(92字)
4. (i) H (ii) H (iii) L (iv) H
5. 家事や育児を夫婦どちらが行うかは、文化的風習により暗黙の了解があったということ。(40字)
6. (D)

[解説]

1.

(I) 直前でアジアに関して言及されており、直後で日本の話に具体的になっているので「例え」 という意味の To give an example が解答。

(II) read between the lines で「行間を読む」という熟語。

(III) articulate は「明瞭に表現する」。直後のカンマと並列になる選択肢を選べば解ける。

(IV) 直後の even in the West に着目する。「西洋ですら」とあるので、The difference の比較対象は「西洋」と「アジア」。「西洋」と「アジア」には差はあれど同じところもある、ということで「差は比較上のもので実態は同じところもある」となる relative を解答に選ぶ。

(V) 直後の whereas に着目。「だが一方で」という意味の接続詞。前後の内容が逆になることを踏まえると、(V) では「詳しく説明されない」はずなので「迷わされたような」という意味の mystified を入れる。leave O C という構造になっている。

(VI) 本段落を最後まで読むと、Online や emoji 等が出てくることから、解答を出せる。

(VII) by design を入れると Smartphone とは元々こういったものである、と書いてある文章になる。restricting the user 以降もヒント。そこからもこの一文がスマホとは、こういったものだ、ということを記載したものだと分かる。

2.

(ア) put an emphasis on [名詞] で「[名詞] に重きを置く」。これの受け身。

(イ) When it comes to [名詞] で「[名詞] のこととなると」。動名詞の熟語。

(ウ) take one's word for it で「人の言葉を信じる」。for は交換の for。そのまま受け取ってしまう、ということ。

(エ) restrict [名詞₁] to [名詞₂] で「[名詞₁] を [名詞₂] に限定する」。

(オ) remind 人 of [名詞] で「人に [名詞] を思い出させる」。

3. such traditions が直前を指しているということを理解し、so does が fade の代用だと理解する。

4.

- (i) 直前に **know each other** とあることと直後の **nods and winks** が解答根拠。言葉にせずとも分かる、という **high** を選ぶ。
- (II) **but** 以降の内容と真逆になることを踏まえる。
- (III) **flock to cities, do business with strangers** が根拠。**strangers** なので (i) と (ii) の内容の真逆になる。
- (IV) 直後の 1 文が解答根拠。**tribes with shared tradition** で生活していたのだから「よく知った関係性」。解答は **high**。

- 5. 1 文前の内容を指定語数でまとめる。「決断を文化に外注する」という内容なので、それを本文にある語で言い換える。
- 6. 第 9 段落空所直前に「何を言っていいか、何を言ってはいけないかに関するルールが時に消えてしまう」とあり、発言を決めるための基準が曖昧または消失しているという趣旨が読み取れる。この内容が選択肢の **with** の句内「自分の決定を導いてくれる **context** がない」という部分で言い換えられるため、D が最も適切。ほかの空欄はそもそも選択肢の英文とテーマのレベルで一致しないため論外。

[3]

- 1. C
- 2. 3 番目 : at, 6 番目 : that, 11 番目 : inseparably
(It is at such times that we also realize how inseparably mixed)
- 3. (i) B (ii) D (iii) D
- 4. comply
- 5. what
- 6. (例 1) 人間の身体と感覚は不可分であり、病気の治療とは、感受性を取り戻す過程でもある。仮に病そのものの治癒が困難な場合でも、寄り添いや対話を通じ、患者が希望を持ち幸福感を取り戻せる手助けをすることが重要だ。(99 字)
(例 2) 体は感覚を通してできているので感情も身体の一部であり、身体を治すことは感受性を治すことにも繋がり逆もまた然りだ。感受性の治療は医術と補完的なものなので、寄り添い優しさを持って患者と対話を重ねるべきだ。(100 字)

[解説]

- 1. 空所の直前 2 文を参照すると、「不快・苦痛な経験が、好ましい経験と対照 (contrast) されたときに、後者の経験は強化される」という旨が述べられているので、そのような contrast の具体例になっているものを選べばよい。それを満たすのは、frustrating, cold, miserable day というマイナスの経験と a warm bath というプラスの例を経験させた C である。D は、calm, uneventful, and ordinary afternoon がマイナスというよりはフラットな出来事であるため、最適とは言えない。

2. なかなかの難問だが、糸口さえつかめれば論理的に正答へ辿り着く良問である。まず、下線部後ろの *our body and souls are* という S+V 構造に注目する。この前には、接続詞や疑問詞のような節を導く語が置かれるはずである。また、前後の「身体と精神は密接に関わり合っている」という文脈を踏まえると、語群のうち *mixed* や *inseparably* はこのあたりで使うのではないかと推理できるはず。以上から、*how inseparably mixed (our body and souls are)* という節を作ることができる。また、主語が *It* であり直後には動詞が置かれるはずだが、語群で残った動詞のうち *realise* には三单現の *s* がないことから、置かれる動詞は *is* で確定する。語群には *that* も残っているので、*it is ~ that ...* の骨組みを作るのではないかと推測できる。また、*times* は複数形であることから使われ方が限られるはずで、語群の *at* と合わせて *at times* というイディオムになるのではないかと推測できるが、形容詞の *such* がまだ残っていることから、修飾対象は名詞しかあり得ないと考えると *at such times* と並べ替えられる。これは副詞句であるから、*it is ~ that ...* の “～” の部分に置くことで、強調構文を作ることが可能。上記をまとめたものが、解答 *It is at such times that we also realize how inseparably mixed* となる。全体としては、「身体と精神がいかに不可分に交ざり合っているかに私たちが気づくのは、そうしたとき (=病に罹ったとき) なのだ」という意味。

3. (i) *vulnerable* は「傷つきやすい、もろい」という意味の形容詞で、これ自体は基本語彙であるため分からなければダメだが、選択肢で直接的にしっくり来るものがない。強いて言えば、*helpless* の「無力な、(自分では) 何もできない」というイメージが近いか。*miserable* は「惨めな、哀れな」という、完全に感情面を描写した形容詞であるため不適。*fatigued* は身体的疲労である。*dejected* も「がっかりした」という意味で、感情を表す。

(ii) *regimen* は「養生法」という意味の名詞で、*treatment plan* に最も近い。

(iii) *function* はここでは「要因、相関的要素」の意だが、A か D かで迷う。論理としては「*feeling better* ⇒ *getting better*」という因果関係のはずなので、それを表しているのは D である (*feeling better* は、*getting better* の従属因子である → *get better* するかは、*feel better* するかどうかに「依存している」ということ)。A だと、*feeling better* が *getting better* を *cause* する (上記の命題の逆) ということになってしまう。

4. 第 2 段落第 1 文の *comply* を *complying* と改める必要がある。直前の等位接続詞 *and* の並列対象を考えたときに、原形 *comply* のままでは並列できる対象が存在しない。*complying* とすることで、it(s) involves(v) entrusting ... and complying ... (o) という構造が成立する。

5. 設問該当箇所は比較的長い 1 文：

For someone whose body is wracked with pain, cachectic, his resolve and determination perhaps bruised and forlorn, who knows that he will never get better,

what is there to do but to hope that today's pain will be more tolerable, that somehow those sensations, experiences, even daydreams which evoke a sense of well-being, of wholeness, can be caught up into the body to make it feel better.

「身体が苦痛に打ちのめされ、悪液質（極度の衰弱）に陥り、不屈の意志や決意も挫けて心細くなってしまった人、そして、決して快方に向かわないことを悟っている人にとって、なすべきことは他に何があるだろうか。ただ、今日の痛みがまだ耐えられるものであるよう、そして、幸福感や充足感を呼び起こす感覚や経験、あるいは白昼夢までもが、どうにかして身体に取り込まれ、少しでも心地よく感じられるよう願うこと以外に。」

文頭の、For someone whose body is wracked with pain, ... who knows that he will never get better, は、「・・・な人にとって」は、someone を修飾する部分が大きな前置詞句。次の部分からが主節だが、元となるのは基本構文、There is nothing to do but to V 原形... 「...する以外にすること・できることがない」 (⇒...せざるを得ない)。この部分を「何ができるというのだ、いや、何もできない」という意味の反語的疑問文 (=修辞疑問文) what is there to do but to hope that...に変化させている。また、後半部分が長くなっているのは他動詞 hope の目的語たる that SV ... が並列されているから。修辞疑問文の部分が主節なので、その先頭は what となる。

ここで注意が要るのは、通常疑問文であれば「？」で終わるはずだ、という思考だ。

こういった文学的、あるいは哲学的な文章では、あえてピリオド(.) で終わらせることがある。それには以下の 3 つの理由が考えられる。

1. 修辞疑問 (答えを求めていない) 「～以外に何ができるだろうか (いや、何もない)」という強い断定を含んでいるため、疑問文というよりは「切実な主張」として響かせるためにピリオドが使われることがある。

2. 静かな余韻と沈黙 この一文は、非常に重苦しく、かつ静かな絶望と祈りを描いている。最後を「？」で跳ね上げるのではなく、「.」で静かに着地させることで、読者にその状況の重さをじっくりと考えさせる効果を狙う。

3. 叙述的トーン 問いかけというよりも、ある種の「真理」や「残酷な現実」を淡々と描写するスタイルを取る場合、文全体のトーンを落ち着かせるためにピリオドが選ばれる。

説明されれば納得できるものだが、知らなければ沼にはまりそうな問題。「？」のある無しで難易度が跳ね上がった。

6. まずは、各段落の要旨を見てみよう。

[1] 人間の身体と精神は不可分である。病気の人を治療することは、病気の原因を突き止めるだけでなく、感受性や感情を取り戻すことでもある。

[2] 治療には辛い側面があるが、その目標には身体がよくなることで、感受性や幸福感を回復することが含意されている。

[3] 病そのものの治療が困難であることが判明した人にとっては、将来の希望や幸福感

こそが重要な課題となってくる。そして、そのためには寄り添いや対話が必要だ。第1段落からは、身体と感覚や感情が不可分であることについて触れたい。第2段落以降の議論の前提となるからである。そのうえで、第2段落からは、治療は感受性や幸福感の回復という精神的な側面をも目標としていることに触れよう。そうすると、第3段落の内容にうまくつながる。つまり、病そのものの治療が困難であるときには希望こそが重要となってくる、治療においては寄り添いや優しさが重要であるというのが本文の結論である。以上を制限字数以内にまとめればよいだろう。

【総評】

文法・長文・長文の3題構成は昨年度と同一。本文そのものの難易度は例年並みと言えるが、問い合わせはかなり time-consuming なものが増えた。大問1の文法問題は相変わらず問題によって難易の差が激しく、奇問の類もある一方で、絶対に落としてはならない超基礎レベルの問い合わせも存在する。大問3では、近年のⅠ期の傾向通り、「本文の要旨をまとめよ」という問い合わせが出題された。字数の制約がきつく、いかにスマートに要素を含めるべきかで悩むであろう。難化した昨年度に比べてさらに難化、一次通過ラインは60%程度か。

昭和医科大学医学部Ⅱ期模試 2026.2.23(月)

科目 英/数/化/生/物 申込締切 2月19日(木) 15:00
会場 東京/大阪/福岡

聖マリアンナ医科大学[後期]模試 2026.2.18(水)

科目 英/数/化/生/物 申込締切 2月14日(土) 15:00
会場 東京/大阪/福岡

料金 8,800円(税込)

※内容は変更になる場合がございます。最新の情報はホームページよりご確認ください。↗

医大別直前講習会 2025-2026

後期・Ⅱ期

- 獨協医科大学
- 聖マリアンナ医科大学
- 日本大学
- 埼玉医科大学
- 昭和医科大学
- 日本医科大学



◆各講座の時間割・受講料・会場についてはHPをご確認ください。↗

26年度解答速報はメルマガ登録またはLINE友だち追加で全科目を閲覧

本解答速報の内容に関するお問合せは



03-3370-0410 <https://yms.ne.jp/>
東京都渋谷区代々木1-37-14

医学部専門予備校 **メビオ** ☎ 0120-146-156
<https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校 **英進館メビオ** 福岡校 ☎ 0120-192-215
<https://www.mebio-eishinkan.com/>

メルマガ登録



LINE登録

